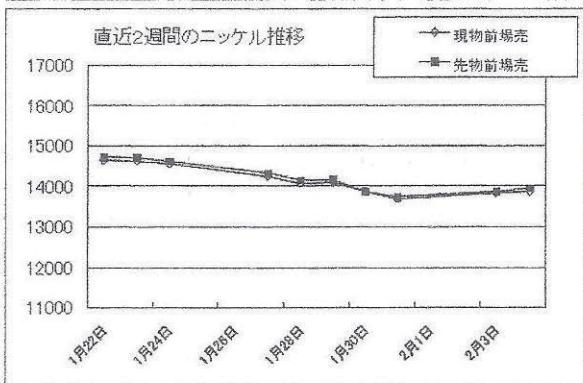
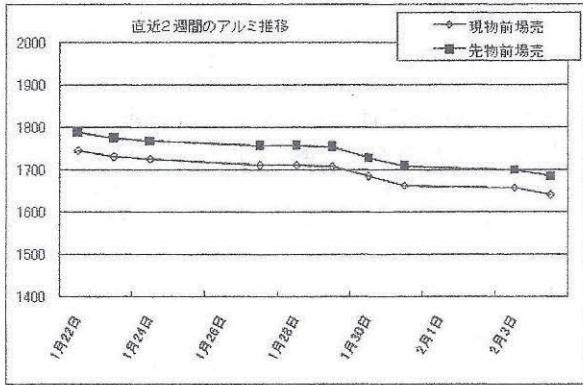
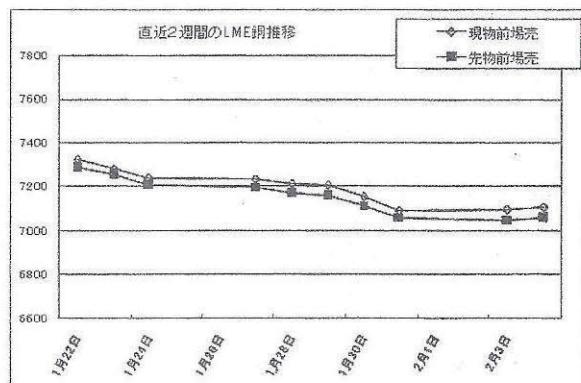


ルと反落。利確売りで後場下落となった。

KLTM錫は10.7セント反発

採算値は2万1,000円高

KLTM錫は、10.7セント高の73.709Mドルと反発。USドルは130ドル高の2万2,150ドルで出来高は45トン。Mドル/USドルレート=3.3277とTTSレート102.58円で換算した採算値は2万1,000円高の227万7,000円、諸掛け込みの採算値は2万1,000円高の243万7,000円。



橋本健一郎氏の銅1月レポート及び2月見通し

■概況: 前半は13年12月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が市場予想を大幅に下回ったこと、週間新規失業保険申請件数が33.9万件に減少し予想の34.4万件を下回り、12月のISM製造業景況指数は57に低下するなどの材料から金融緩和縮小鈍化観測が台頭するも13年12月の米雇用統計で雇用者数の増加幅が想定外に低調だった一方で13日の米株式市場では米アトランタ連銀のロックハート総裁が雇用環境に懸念を示しつつも量的金融緩和の縮小の継続が望ましいと発言したこと嫌気し小幅下落、7343ドル(セツル)と前月最終価格より-44ドル下げての前半締めとなった。

後半は1月のNY連銀製造業景気指数は+12.51に上昇し予想の3.50を上回り、12月の米生産者物価指数は前月比0.4%上昇で6カ月ぶりの大幅な伸び。また12月の米CPIは前月比0.3%上昇、コア指数は0.1%上昇などの米経済指標の好結果やIMFが2014年の世界経済成長率を3.7%とし昨年10月時の3.6%から上方修正するなどのプラス材料があったものの昨年のドイツGDP成長率が0.4%と予想を下回ったこと、1月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比0.9ポイント低い49.6となり半年ぶりに好不況の境目となる「50」を下回ったこと、アメリカの金融緩和縮小や中国景気後退による新興国からの資金流出不安でトルコ、アルゼンチン株が暴落したことから

世界経済後退懸念が台頭、2月4日現在、前半締めから247.5ドル暴落の7095.50ドル、建値77万円のスタートとなった。

■前月の経済指標: 月間のドル/円レート(TTM)は105.03→102.45(円)。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+12.2%の78万6609台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は前年比+27.5%の29万2446台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+18%の8万9578戸であった。

貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-16.3%の3万6330t、スクラップが-24.8%の2万2414t。輸入は前年比で電気銅が+85.3%の4817t、スクラップが+51%の8091tであった。

前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)では前年比+15%の6万5560t。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)では前年比+8.6%の6万1600tであった。

■見通し: 1月は米連邦準備理事会(FRB)による金融緩和縮小や中国景気後退観測による新興国の資金流出問題に一喜一憂した月となった。

自動車生産は前年比+12.2%の78万6609tと4カ月連続プラス、乗用車は7万3,301台(12.3%)増加の66万8,033台で4カ月連続のプラス、トラックは1万2,142台(12.6%)増加の10万8,573台で6カ月連続のプラス、バスは225台(2.3%)増加の10,003台

で3ヵ月ぶりにプラスとなった。輸出(実績)は前年同月比5.1%の減少、販売の方は5ヵ月連続前年超えの前年比+27.5%、乗用車は+28%、貨物は+24.4%、バスは-4.6%となった。新設住宅着工戸数は先月に続き16ヵ月連続増加の前年比+18%(前月比(季節調整済み)+1.7%)の105.5万戸。このところ消費マインドの改善等もあり堅調に推移、持家は+19.1%、貸家は+29.8%、分譲住宅は+2.1%、分譲マンションは-7.4%となった。

伸銅品生産量は前年比+15%の6万5560tと6ヵ月連続前年を上回り、内需は+13%、輸出は円安を追い風に9ヵ月連続前年プラスの+27%となった。銅電線出荷量は前年比+8.6%の6万1600t、うち国内は+8.1%、輸出は+25.5%、通信は-10.6%、電力は+2.9%、電気機械は+8.3%、自動車は+14.4%、建設電材は+9.8%となった。

輸出に関しては電気銅が前年比-16.3%の3万6330t、銅スクラップは-24.8%の2万2414t。3円近く円高が進んだことや発送難、好調な国内生産を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少した。輸入は電気銅が+85.3%の4817t、スクラップは+51%の8091t。円高の進行による割安感や内需の好調から電気銅、スクラップともに輸入が増加したと見解。

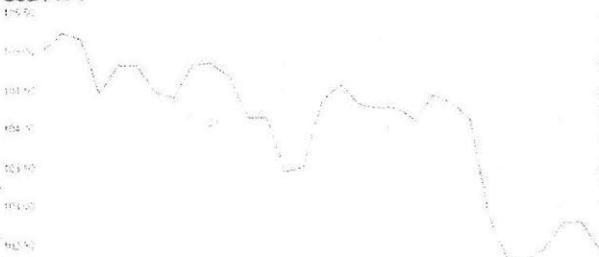
銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工戸数が前年比+18%と16ヵ月連続の増加となり、持家+19.1%、貸家+29.8%と大幅増、消費税前の駆け込み需要から依然好調さが伺え今後の動向に期待。待望の自動車は生産が4ヵ月連続上昇の+12.2%、さらに12月の国内販売台数が前年比+27.5%と大幅増で前月に続き予測通り販売増

	10月	11月	12月
生産台数	87万1434台	84万6151台	78万6609台
前年比	+10.1%	+10.3%	+12.2%
	11月	12月	1月
販売台数	26万4597台	25万4464台	29万2346台
年比	+17%	+18.7%	+27.5%
	10月	11月	12月
新設住宅着工戸数	9万226戸	9万1475戸	8万9578戸
前年比	+7.1%	+14.1%	+18%
輸出	10月	11月	12月
電気銅	3万5038t	2万7156t	3万6330t
前年比	-5.2%	-33.6%	-16.3%
スクラップ	2万7150t	2万6090t	2万2414t
前年比	-24.3%	-11.7%	-24.8%

につられて生産が増加、消費税前の駆け込み需要から住宅、自動車需要の2本柱が上昇。為替が一時100円近辺と大幅円高が進行、輸入原材料も割安感が多少台頭したもの国内原材料へのシフトが見られるがこちらも発送難から引き続き供給不足が続くと見解。ただ消費税前の駆け込み需要が終わる4月以降一旦需給は緩む。

銅価格に関しては、今月は春節明けの中国の動向及び新興国からの資金流出問題に左右される。中国の動向に関しては1月のHSBC中国製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値は前月比0.9ポイント低い49.6となり半年ぶりに好不況の境目となる「50」を下回ったことから後退懸念は根強いのではないか。またそれに伴い資金流出問題も再燃する可能性は高い。FRBの金融緩和縮小も米国自身の株価がさらに下落しなければペースを落とす可能性は低く今月は希望薄。それらを踏まえた銅価格は、上値では春節明けに景気対策や声明もしくはFOMCで金融緩和縮小ペースの鈍化など行われた場合に1月後半高値付近の7300ドルを予測。下値では上記の景気対策などが行われなかった場合1月後半もう一段安値の6900ドルを予測。為替は上記景気対策が行われた場合に下値は他国通貨高円安から一月後半安値の104円、上値は景気対策が行われなかつた場合に失望感から99円まで円高が進むと予測。銅建値に関しては730~800円程度と予測している。

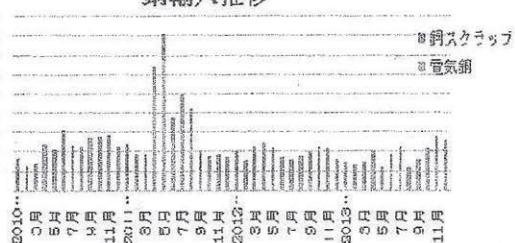
USD / JPY



輸入

	10月	11月	12月
電気銅	3765t	6643t	4817t
前年比	+21.5%	+49.7%	+85.3%
スクラップ	7078t	8915t	8091t
前年比	-13.1%	-4.7%	+51%

銅輸入推移



銅輸出推移

